

3. 主要プログラム

基本理念・基本方針を具体化し実現させるために4つの主要プログラムを定め、それぞれを「キャッチフレーズ」で表現しました。

【ともに築く、安全・安心な地域づくり】

■ RiskCommunicationの醸成 (リスクコミュニケーションのじょうせい)

「リスクコミュニケーションの醸成」とは、起こりえる災害や危険、環境問題に対して、住民、関係機関などが情報を共有して、その影響や対策、対応についての意思疎通を図ることを、地域の中で作り上げていくことを表しています。

■ 防災・減災・安全活動の推進

防災拠点である上田道と川の駅は、安全・安心な地域づくりを進める為に、関係機関や地元組織との連携により、日常的に防災・減災・安全活動を実施していきます。

■ 健康増進、福祉向上の推進

施設のバリアフリー化や設備の充実を図り、健康づくりや、福祉の向上につながる活動を実施していきます。

■ 安心な暮らしを応援

子供たちの安全、動物愛護に関する活動、道の駅の機能を活かした情報網の整備などを進めていきます。



【学びあい、ともに育つ環境づくり】

■ 地域ぐるみではぐくむ、未来の担い手

地域の知恵や大学の専門的知識、また、それを融合させ、子供たちの生きる力をはぐくむために、体験型学習をメインに実施していきます。

環境教育に関しては、「環境への興味を誘起する」ことをねらいとし、環境に対しての様々な角度からの、調査・学習・発表会などを実施していきます。

■ 地域の教育力向上

上田道と川の駅おとぎの里は、地域との連携のもと、「人材」、「施設」、「素材」、「交流」、「自然環境」を「教育資源」と捉え、その資源を磨き、子供たちの学びに活かすことを「地域の教育力の向上」としています。

■ 「知・心・体」はぐくむ 環境づくり

心と体の健康、運動力、知識や知恵を育むことをめあてとした支援活動を実施していきます。



【ともにたらしき、ささえ合う拠点づくり】

■住民、来訪者が集う拠点づくり

地域振興と地域活性をめざし、諸活動を展開する場合、その象徴となる集いの場が求められます。拠点において独特な経過を持っている私たちは、その経過を基礎として、「持続可能な豊かな地域の創造」のために「ともにたらしき、ささえ合う拠点づくり」を進めていきます。

集いの場の経過と展望

～H13 住民主導	…ハード・ソフト両面の「拠り所」=活動の拠点づくり
H21～ 行政連携	…必要施設の整備と既存施設の快適性の向上
H27～ 公の施設管 地域同化 拠点拡充	…効率的・効果的な施設管理 …サテライト拠点の整備推進 …既存拠点充実、エリア拡大・拠点加増（四期目標）



【ともに創造する、魅力ある地域づくり】

■地域のブランド化

地域の文化や歴史、地勢やそこで暮らす人々とその営み、風土を活かした商品やサービス、それらの複合を地域の価値として、「ブランド」として評価されることを目指します。

■地域資源の活用と創造

「観光資源」や「教育資源」でもある地域資源を様々な角度から考え、魅力ある地域づくりのために、その活用と新たな地域資源を創造をしていきます。

■地産地消推進と6次産業の推進

特定の産地で小品目大量生産・大量出荷の流れから、その風土に合った生産物をそこで暮らす人たちが生産し、地域内での消費を促進すること、また、フードマイレージの視点、生産者の顔が見える安心な食品の取り扱いの観点からも地産地消を推進していきます。

また、農林水産物の生産から加工、販売まで複合的に行う6次産業を推進していきます。

■Areamanagementの推進

「自分たちが暮らす地域を、自分たちで管理運営する」意味として使用しています。このことは、森林と居住区の緩衝帯である「里山」の整備とその活用や産物の利用、また、活動拠点の管理運営もこれにあたります。

